

● 運営委員会が始まりました

鳥取県ユニセフ協会の運営を円滑に行うために、月に1回運営委員会を開催しています。ラブウォークなどの募金活動やユニセフ学習会、イベントでのユニセフカード・ギフトの頒布活動、学校への出前授業などについて企画運営しています。賛助会員およびボランティア登録をしている方は、運営委員になることができます。いろいろなアイデアでユニセフ活動を広げていきましょう!!

ユニセフの活動はすべてボランティアによって支えられています。鳥取県ユニセフ協会でも、一緒にユニセフ活動をしていただける**ボランティアの方を募集**しています。

例えば、どんなことをするの?

- ◆いろいろな人にユニセフのことを伝えたい  
→ 学習会やパネル展に!  
→ 学校などへ出前授業に!

- ◆人と会うのが好き  
→ 募金活動に!  
→ イベントでのカード・ギフトの頒布に!

- ◆文章を書くのが好き、パソコンが得意  
→ 広報誌の編集やホームページ作成に!

- ◆事務作業が得意  
→ 事務局のお手伝いに!

みなさんの力をおまわしています。

[今後の活動予定]

7月29日(火) 平和と世界の子どものことを知ろう  
10:00-12:00 (鳥取市立国府東小学校 学童保育)

9月28日(日) 大山まきはまつり カード・ギフト頒布  
(大山まきはみるくの里)

10月19日(日) せいきょうまつり カード・ギフト頒布  
(ウインズ米子)

10月25日(土) ユニセフ LOVEゴルフ  
(グリーンパーク大山ゴルフ倶楽部)

「大山まきはまつり」「せいきょうまつり」  
でお手伝いして下さる方 募集中!

賛助会員募集!

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によってご支援いただく方法です。現在、鳥取県でも8つの団体会員を含め多くの一般賛助会員の方に協力いただいています。鳥取から世界の子どもたちを支えるために協力よろしくお願いします。

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人の方	一口 5,000円
学生賛助会員	18歳以上の学生の方	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

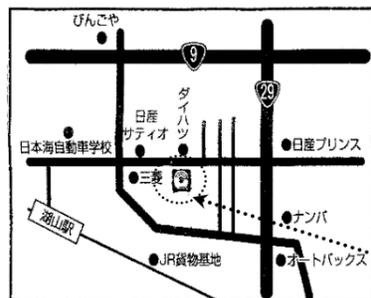
■ ユニセフライブラリー

ユニセフの活動を紹介するビデオ・DVD・パネル・学習教材等の貸出しを行っています。

- ビデオ・DVD  
「ユニセフと地球のともだち」「いのちの水」「子どもの権利」など
- パネル  
「ユニセフってなあに」「わたしも学校に行きたい」
- 学習教材  
「地図でユニセフ」「地球のともだちユニセフワークブック」「幼児向け絵本「ちきゅうからのしつもん」」など
- 展示ツール  
ネパールの水がめ、マラリア対策の蚊帳、経口補水塩(サンプル) など

鳥取県ユニセフ協会

〒680-0931  
鳥取市岩吉175-4 鳥取県生協内  
TEL : 0857-30-4535  
FAX : 0857-31-3330  
E-Mail : unicef-tottori@juno.ocn.ne.jp



ボランティア登録、資料貸出、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

月・火・金 10:00~16:00  
水 10:00~12:00

鳥取県生協本部1階内になります!

2013年12月12日 鳥取県ユニセフ協会設立!



「鳥取県ユニセフ協会の設立にあたって」 会長 豊島 良太

ユニセフの名前を知らない方はいらっしゃると思います。第二次世界大戦により困窮生活を強いられていた子どもたちへの支援を行うため、1946年に創設された国連の機関の一つです。われわれ日本人も、1949~1964年の15年間にわたり、給食用の粉ミルクや薬などの支援を受け、2011年3月11日に発生した東日本大震災に際しても、多くの支援を受けています。

活動は募金と各国政府からの拠出金により行われており、日本ユニセフ協会が1955年に設立され、その後、県単位の協会が順次設立されてきました。しかし、残念ながら鳥取県には県協会がありませんでしたので、小中学校やボーイ・ガールスカウト、生協グループなどによって

個々に募金などの活動が行われてきました。活動の活性化のために、鳥取県におけるまとめと世話役として県の協会の設立が望まれてきた中で、このたび、鳥取県ユニセフ協会が設立されました。

もとより、篤志の会ですので、鳥取県ユニセフ協会を質素儉約な運営に努め、中身の濃い効果的な支援活動を行う会にするために、まずは鳥取県の多くの方々にご入会いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ユニセフって?

ユニセフは、世界の子どもたちの命と健康と未来を守るために活動しています

ユニセフ(国際連合児童基金)は、子どもたちの命と健全な成長のために190以上の国と地域で、保健、栄養、水と衛生、教育、暴力や搾取からの保護、エイズ、緊急支援、アドボカシー(政策提言)などの支援を行っています。その活動資金は、すべて個人や企業・団体・各国政府などの募金や任意拠出金でまかなわれています。



シリア難民キャンプの子どもたち ©UNICEF\_NYHQ2013-1418\_Noorani

鳥取県ユニセフ協会は、ユニセフへの協力活動を行っています

(公財)日本ユニセフ協会は、世界36の先進国・地域にあるユニセフ協会(国内委員会)の一つで、日本国内におけるユニセフの唯一のパートナーです。その(公財)日本ユニセフ協会と協力協定を締結した協定地域組織として、国内で26番目に鳥取県ユニセフ協会が設立しました。地域に根付いたユニセフへの協力活動をボランティアの方と行っていきます。



- 主な活動内容
- ・ 募金活動
- ・ 学習会やパネル展
- ・ 学校などへ出前授業
- ・ カード/ギフト頒布 など

# 活動報告

## ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

～栄養不良から小さな命を守ろう～



2013年12月、県内各地で第35回全国一斉ハンド・イン・ハンド募金を行い、たくさんのご協力をいただきました。

鳥取県生協は、12月17日(火)イオン日吉津店、12月21日(土)イオン鳥取北店にて、ガールスカウト鳥取県第4団は12月23日(月)倉吉パープルタウンにて、また、鳥取市少林寺拳法協会は鳥取駅前にて募金活動をしました。雪の舞う寒い日もありましたが、ボランティアの子どもたちも元気いっぱい大きな声で呼びかけました。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



**ハンド・イン・ハンドって？**  
 1979年の国際児童年に誕生したユニセフ ハンド・イン・ハンド募金は文字通り“手に手をとって”一人ひとりがボランティアとして参加する募金活動です。「世界の子どもの笑顔のために」との想いを共有して下さる方なら誰でも参加できる身近な国際協力活動です。

**みなさんの募金で  
 こんなことができました**

防ぐことができる病気などで  
 命を失う5歳未満の子どもの数

1990年	1250万人
↓	
2011年	690万人

## ユニセフ ラブウォーク in 鳥取

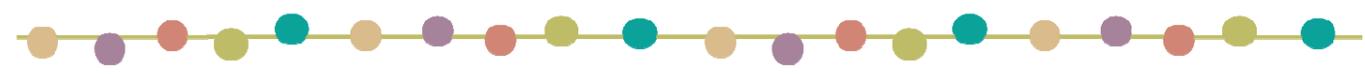
「栄養不良から苦しむ小さな命を守ろう」をテーマに、5月10日(土) 風薫る晴天の中、倉吉市の白壁土蔵群周辺にてユニセフ ラブウォークを開催しました。鳥取県ユニセフ協会が発足して、県民の皆さんに広くアピールする初めての取り組みです。

当日の参加者は大人、子ども合わせて64名。ガールスカウト、地元のウォーキング協会のご協力のもと、レトロな街並みが残る倉吉白壁土蔵群周辺を、ボランティアによる歴史ガイドを聞きながらゆっくりと歩きました。また、途中ユニセフクイズも取り入れて、世界の子どもの現状を知っていただきながら、気持ちのいい汗をかきました。歩き終わった後には大山乳業、鳥取県生協から飲み物やおやつを提供していただきました。

今回は、当日の参加費から¥19,552を募金とさせていただきます。ご協賛およびご参加していただいた皆様ありがとうございました。



2014年度  
 ラブウォーク実施テーマ  
**栄養不良から苦しむ  
 小さな命を守ろう!**  
 楽しく歩いた汗がユニセフを通じて発展途上国の子どもの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。参加費がユニセフ募金となるこの運動は1965年にイギリスで生まれ、日本では1983年に始まりました。



## ユニセフ ボランティア学習会

### ● ユニセフ学習会

1月28日(火) 鳥取県生協主催のユニセフ学習会を、鳥取市さざんか会館にて開催し、17名の参加がありました。DVD「ユニセフと地球のともだち」で世界の子どもの現状やユニセフ活動を学習した後、下痢による脱水症状を防ぐために役立つ「経口補水塩」を作り試飲しました。また、ワークショップでは家計を助けるため子どもたちが行っている「インドの紙袋作り」を体験しました。



### ● 第1回 役員会(理事会・評議員会)開催

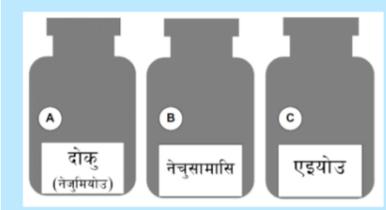
4月25日(金) 第1回役員会(理事会・評議員会)を、鳥取大学 広報センターで開催しました。理事20名の内、16名の参加があり、提案された議案については、全て承認されました。

また、終了後のミニ学習会では、西伯郡南部町立会見小学校より田中恒二先生を迎え、以前6年生で実践されたユニセフ学習と活動についての話をいただきました。



### ■ 文字が読めないことを体験するワークショップ

お母さんが高熱だ! 大変!  
 先生の薬棚には、毒(ネズミ用)・熱冷まし・栄養の3つの薬が置いてあります。  
 お母さんに飲ませたい熱冷ましの薬はどれ?



5月17日(土) 米子市産業体育館にて、ユニセフボランティア学習会を開催し、26名の参加がありました。

学習会では、教育協力NGOネットワーク(JNNE) が主催している「世界一大きな授業」に参加しました。これは、世界の子どもの教育の現状に目を向け、世界100カ国で教育の大切さを同じ時期に考える世界規模のイベントです。ワークショップやクイズを通して、教育の現状について理解を深め、また世界の教育を変えるにはどうしたらよいか考えていきます。

参加頂いた方々からは…  
 「文字が読めないことを体験で知ることができた。経験で知るとは理解が深まる。このような機会を多く開催してほしい。」  
 「世界を“知る”“気づく”こと、その機会をもっともっと増やしていくことが大切。」等の感想をいただきました。

その後、DVD「ユニセフと地球のともだち」を視聴し、鳥取県ユニセフ協会から活動について説明を行いました。また貸出可能なパネル、水がめ、蚊帳、DVD、ユニセフワークブックなどの教材を展示し、実際に見ていただきました。この学習会をきっかけにボランティアの輪も広がりました。

